



市民の党

横浜市議会議員 井上さくらのニュースレター

2011年 秋号

さくら便り



井上さくら事務所
〒230-0062
鶴見区豊岡町35-27
TEL 045(571)6950
FAX 045(571)7020
✉ sakuraline@me.com

横浜にも防災無線を!

東日本大震災で津波の危険を知らせた「防災無線スピーカー」からの呼びかけ。多くの命を救いました。

しかし、いま横浜にはこのスピーカーがありません。

これまで横浜市の防災計画では津波の被害は出ないものとされてきましたが、そうした想定を見直さなければならないのです。

命を守るための準備を最優先に、横浜でも防災無線スピーカーをまずは沿岸に近い区から設置する必要があります。

また津波の際の避難先の選定を急いで行っていきます。



子どもたちを放射線から守る!

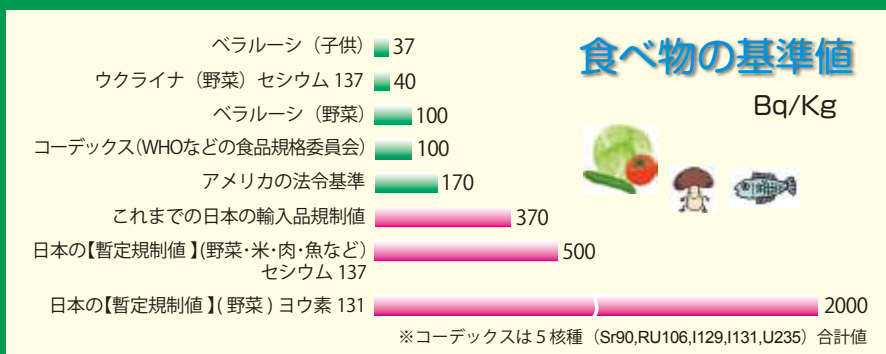
事故を起こした福島第一原発からの放射能汚染が止まりません。

横浜では127の小学校給食に、セシウム汚染の稲わらを食べた牛の肉が使われていました。

各地に拡散する放射性物質からは放射線が出ており、これは私たちの遺伝子を傷つけます。

特に成長期の子どもが影響を受けやすい事が分かっています。

地面や空気中から受ける「外部ひばく」以上に、食べ物等から体内に放射性物質を取り込んでしまう「内部ひばく」に気をつけなければなりません。



現在の食品の【暫定規制値】は原発事故を受けて作られたもので、国際的にみても大変ゆるく、大人も子どもも同じになっています(左グラフ参照)。

子どもを守るためには、

より厳しい規制値を定め、汚染された農畜産物は国が買い上げる等して子どもの口に入らないようにする必要があります。

学校や保育園、幼稚園などの給食による【内部ひばく=ゼロ】を目指し、きめ細かい食材の検査、放射線測定などの対策を市長に求めています。

ご心配な事、ご意見、ご要望など、ぜひお聞かせください。



電気が足りないってホントなの？

節電が呼びかけられています。

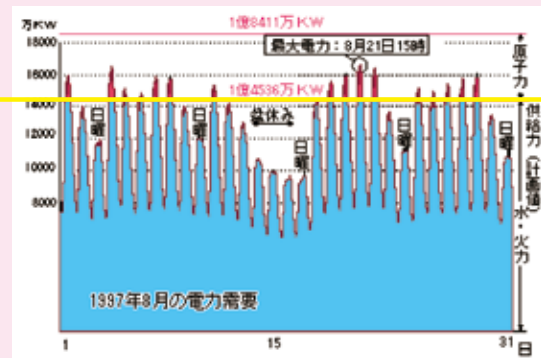
電気でも何でも、ムダ使いはいけません。

でも、熱中症になるほどガマンする必要はありません。

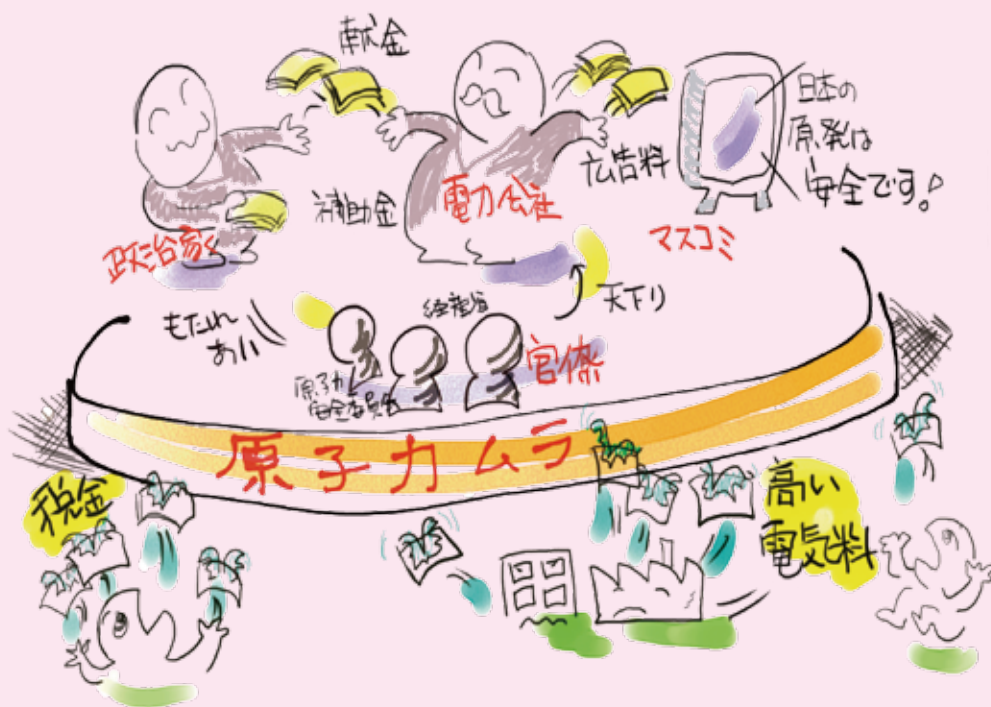
電気が足りなければまた「計画停電」と言っていた東京電力、実際には他の電力会社への融通を開始し余裕がある事を認めました。

狭い日本に54基もある原発ですが、その電力が無いとまかなえないのは、一年で一番電気を使う夏、数日の昼間のみ。（右のグラフの黄色の線以上）

この分を、新しいエネルギーに【シフト】すれば危険でコストの高い原発にさよならできます。



原子力利権を解体してエネルギーに新しい未来を



原子力利権の解体

再生可能
エネルギーへの
投資に転換

エネルギーの
地産地消

安全で安定したエネルギー
地域にも雇用を創出

いま日本の電気料金は世界一高くなっています（米国の2倍）。更に毎年5,000億円を超える予算が原子力関連費として税金からつぎ込まれ、巨額の原子力利権がつくられてきました。

この利権に群がる少数の人たちの原子力「ムラ」を解体し、再生可能エネルギーへの投資に転換する事、また、電力会社が送電網まで独占している状態を改めて、工場の自家発電や自然エネルギーにも解放すれば、電力の安全と安定を両立しながら、地域にも雇用をつくり出す大きな可能性が広がります。

必要なのは、古くて危険なこの原子力「ムラ」にNOと言う市民の世論と行動です。

ホームページ <http://sakuraline.sakura.ne.jp>

メール sakuraline@me.com

トキタマ日記 <http://d.hatena.ne.jp/sakuraline/>

*よろしかったら覗いてみてください。

ツイッター <http://twitter.com/#!/sakuraline>

ご意見などお寄せいただければ幸いです。